



PHP  
Business Shinsho

# 伝える力2

もっと役立つ! 「話す」「書く」「聞く」技術

Akira Ikegami

池上 彰

## 第1章

---

# 東日本大震災と「伝える力」

# 1.「ようめん……」と言われても

「ようめん」に付着する放射性物質はですね……」

「農作物への放射線の被害は……ようめんですね……」

突然発せられる「ようめん」という言葉。私は思わず「ウン!? ようめん?」と思ってしまいました。この「ようめん」が何を意味するか、あなたはわかりますか?

エッ、妖面? それはまあ、なんと面妖<sup>めんよう</sup>な。

ひょっとして「面妖」って、ナニ? と思った人もいるでしょうか。確かに今では使う人がほとんどいなくなりましたね。「面妖」は不思議な様<sup>さま</sup>、怪しい様を表わす言葉です。

一方の「妖面」は少なくとも国語辞書には載っていない言葉です。では、この場合の「ようめん」はどう書くかという……「葉面」と書くのですね。

ピンと来た人はどれぐらいいるでしょうか。「ようめん」と聞いて、「葉面」がすぐに思い浮かぶ人はとても少ないのではないのでしょうか。

「ようめん」という言葉を聞いたのは、テレビ朝日系列のテレビ番組『そうだったのか! 池上彰の学べるニュース』(以下『学べるニュース』)でのことでした。二〇一一年三月一

一日に起きた東日本大震災のあと、福島第一原子力発電所で事故が起き、多くの人が放射線の影響について大きな心配を抱いていたときでした。番組では専門家を招いて、原発の状況や放射線の危険性について解説をお願いしたのです。

専門家にとって「葉面」はごく当たり前の用語なのでしょうか。もしかしたら、日常的にも「葉面に付着」という表現を使っているのかもしれませんが。しかし、私を含めて、多くの人は「葉面」をふだん口にすることはまずありません。

話の流れから「ようめん」とは「葉面」、つまり「葉っぱの面」のことだと推測した私は、とっさに「葉面、つまり葉っぱの表面のことですね」と確認の問いかけをしました。相手は「そうだよ、そんなの当たり前だよ」という表情をされたように見えました。が、多くの視聴者は私と同じように、一瞬「ン!? ようめん?」と思ったのではないのでしょうか。

テレビに出ているときの私の役割の一つは、その多くの視聴者と視線——最近では、映画業界や演劇業界、テレビ業界などの人が使っていた「視線」も多くの人が使うようになりまして——の高さを同じくして、わかりやすく伝えることです。

それを私が専門家のほうを向き、専門家のレベルに合わせ、「ええ、葉面に付着する

放射性物質を見るわけですね」などとしたり顔で話したのでは、多くの視聴者は理解できないままテレビを見続けることになってしまいます。いいえ、見続けられることなく、「なんか、よくわからないや」などと思われて、チャンネルを変えられてしまうでしょう。おもしろくない、ためにならない、わかりにくい、と思われたら、その番組はすぐに変えられてしまいます。テレビの視聴者はたいへんシビアですから、出演者やスタッフは当然ながら、おもしろく、ためになって、わかりやすい番組を作ることに関心することになるのです。

## 2. 和文和訳をして解説した

原発の事故のニュースでは、「水素爆発」という言葉もしばしば出てきました。そうしたときは「水素爆発というのは水爆とは違いますよね」と専門家に聞き返したりもしました。私はそれらの意味の違いを知っていますが、あえて聞くわけです。

専門家はやはり「エッ!? そんなの当たり前でしょ」という顔をします。でも、水素爆発と水爆って同じかしら、それとも違うのかしら、と思う視聴者もいるのです。

水爆って、確か水素爆弾のことだよ。でも、水素爆発も略せば水爆になるし。それに

確か、水蒸気爆発というのもあったような……。？マーク、つまり疑問符が頭の中に渦巻うずまいている視聴者も少なくないはずです。

水素爆発に水爆、それに水蒸気爆発……。専門外の人にとってはわかりにくく、紛まぎらわしい用語です。専門家にしてみれば当たり前のことも、専門外の人にはごく基礎的なことか  
らわからない。こうしたことはどの分野でもありうることですが、専門家はそのことに思  
いが至らないケースが多いのです。

東日本大震災が起きた直後に私が出演したテレビ番組では、このように専門用語をいかに  
わかりやすく伝えるかにかなり気を配りました。専門用語やわかりにくい表現を別のわ  
かりやすい日本語に置き換えて説明することを意識的にしていたのです。私はこれを  
「和文和訳」と呼んでいます。

この和文和訳の作業を繰り返していると、相手の専門家も「ははーん、一般の人はそう  
いうことから説明しないとわからないのだな」と気づいてくれるようになります。その結  
果、少しずつ「原発と原爆の違いはですね……」「ウランというのはですね……」などと、  
基本的な用語の説明も丁寧にしてくれるように変わっていききました。「あつ、この先生も  
学んでくれてるな」と、私は内心思ったりもしていたのです。

そういう私もかつて担当したNHKのテレビ番組『週刊こどもニュース』で、子どもたちにはいふんと鍛えられました。

「銀行って、何をしているの？」

「株を持っていると、何かいいことがあるの？」

「談合って、話し合い!? それが、どうして悪いの？」

「戦争はどうして起こるの？」

「税金って、何？」

「政府って、何？」

「高気圧って、何? 低気圧って、何？」

……子どもたちの口からは、素朴な質問が次々に飛び出します。これらの質問を投げかけられることで、私はそれらの言葉の意味をいっそう吟味<sup>さんみ</sup>し、理解を深めていくことができました。

それと同時に、子どもたちはもちろん、多くの大人も、用語の意味や世の中で起きていることを必ずしも理解していないことに気づかされました。

これには、第3章で書くように、学校の教科書がわかりにくいことも関係しているでし

よう。ニュース番組が必ずしもわかりやすくはないことも影響しているかもしれません。さらには、日々の仕事に忙しく、世の中のことにについて改めて勉強する時間などないという現実的な問題を抱えている人も多いことでしょう。専門家や新聞記者、テレビ番組の作者などは、そのことにどこまで気づいているのでしょうか。

さて、先ほどの「水素爆発」と「水爆」と「水蒸気爆発」って、いったいどう違うの？ そんな疑問が頭の片隅に引っかかっている人もいるかもしれません。

例として挙げた手前、少し説明すると、水素爆発とは、気体の水素が酸素と一緒にすることで爆発することです。

水爆とは水素爆弾の略で、核兵器の一種。原子爆弾を爆発させ、そのエネルギーで水素の原子核を融合ゆうごうさせ、莫大なエネルギーを引き出します。原爆より格段に爆発力が強いため、かえって使えなくなってしまった核兵器です。

水蒸気爆発とは、水が非常に温度の高い物質と接触することで急激に水蒸気に変化することです。液体が気体になることで体積が爆発的に膨張する現象です。火山が噴火するとき、しばしばこの現象が起きます。地中のマグマが上昇し、地表付近の地下水と接触して水蒸気爆発が起き、火山の噴火に至るのです。